



『原教界』 創刊十周年を祝って
Celebrate the 10th Anniversary of Aboriginal Education World
文—宮岡真央子（福岡大學人文學部准教授）

敬祝《原教界》創刊十週年

編輯團隊與其他協助 ▼

このたびは、『原教界』創刊10周年、誠にありがとうございます。

九州の福岡市に位置する私の研究室で『原教界』を2ヶ月おきに拝受するようになり、もう何年も経ちます。台湾へ出かけるのは年に数度だけ、一度に数日から2週間程度の滞在がせいぜいという私にとって、はるか台北市木柵から2ヶ月ごとに届けられる『原教界』は、自分と台湾との繋がりを再確認させてもらえる大変ありがたい存在です。

豊富で豊かな経験を読者に

霧各文の主題に日本語と英語の訳語が付されていることから、この雑誌がただ原住民族教育関係者のみならず、台湾の外で原住民族に関心をもつ様々な立場の人をも読者に想定して編集されていることがわかります。『原教界』は、原住民族に関わる新しい社会動向や問題領域を知る、各方面で活躍中の多様な著者の存在を知る、各民族語の表現世界を垣間見る、原住

恭喜 《原教界》創刊十週年！位在九州福岡市の辦公室，每隔兩個月就會收到《原教界》，已經好幾年了。其實到台灣的機會一年只有幾次，每一次逗留的時間頂多幾天到兩個禮拜，對我來講，來自遙遠台北市木柵的《原教界》是讓我再次確認自己與台灣的聯繫，這實為值得感謝的存在。

給予讀者豐富多元的經驗

各文章的主題都有日英譯文，從這個部分也可以知道，這本雜誌不只針對台灣原住民族教育界的人士，也將在海外關心原住民族動向的各界人士納入讀者群之中。我們透過《原教界》瞭解原住民族最新的社會動向與課題領域，認識在各方面活躍中的多



2008年政大原住民族研究中心舉辦第一屆「台日原住民族研究論壇」，宮岡真央子老師前來共襄盛舉。圖左為政大民族系馬耀基朗博士，現於史前館南科分館擔任助理研究員；圖右為政大民族系博士生李重志。（圖片提供 編輯部）



民族的言語・文化を広い視野でとらえる、といった実にさまざまな出会いを読者に与えてくれる得がたい雑誌です。

『原教界』のポリシーを貫く

フィールドワークの折に原住民族居住地の小学校や中学校を訪れた際、職員室などで『原

政治大學原住民族研究中心一直堅持的態度。



到部落田野調查時，好幾次在國小或國中老師們的辦公室裡看到《原教界》。想到在離台北頗遠的原住民族部落學校，甚至在福岡市我的辦公室裡都有一本《原教界》的時候，不得不敬服政治大學原住民族研究中心一直堅持的態度。

元作者，體會各族語的表現世界，在寬闊的視野中見識原住民族的語言文化。《原教界》帶給讀者豐富多元的經驗，是本非常珍貴的雜誌。

《原教界》堅持的態度

到部落田野調查時，好幾次在國小或國中老師們的辦公室裡看到《原教界》。想到在離台北頗遠的原住民族部落學校，甚至在福岡市我的辦公室裡都有一本《原教界》的時候，不得不敬服政治大學原住民族研究中心一直堅持的一個態度。這個態度就是：「要讓這本雜誌成為各式各樣的人能互相認識的平台，要讓這些互相認識的人可以彼此學習。」

由衷的祝福

做為一個讀者，我對這10年間持續在《原教界》編輯部努力的政大原民中心主任林修澈教

授」を見かけたことが何度もありました。台北から離れた原住民族の村の学校にも福岡市の私の研究室にも、等しくこの雑誌が届けられていることを思うとき、国立政治大学原住民族研究センターがこれまで貫いてこられた一つのご姿勢に対して、敬服せずにはおられません。それは、さまざまな人と人をつなぐ出会いの場をつくり、そこで出会った人が互いに学び合う場をつくらうとすること、とでもいうことができます。

心から祝福を

10年間の長きにわたり『原教界』の編集・刊行という地道なお仕事を続けてこられた国立政治大学原住民族研究センターの林修澈教授はじめ諸先生方、スタッフの皆様の熱意とご努力に対し、この場をお借りして心より敬意を表し、読者の1人として深くお礼申し上げます。そして、同センターと『原教界』の今後ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

授、其他老師們與工作團隊的熱情與付出，表達由衷的敬意與感謝。祝福政治大學原住民族研究中心與《原教界》在未來更加發展！◆



宮岡真央子

在橫濱市成長，現任福岡大學人文學部准教授，研究領域是文化人類學、台灣原住民族研究。碩士班修業時初次到台灣旅遊，在台灣東南部接觸原住民族文化後被深深吸引。2001-03年在博士班就讀期間，花費一年半的時間在阿里山鄉鄒族部落從事田野調查，同時也認識了政大原住民族研究中心的老師們。目前對日本人類學史與歷史事件在當代原住民族社會的評價與解釋充滿興趣。

